リーエンダ with TENA

Vol.12 根拠ある排泄ケアで、布パンツ使用者率50%に

「お洋服は着慣れたものが一番」「それなら下着も同じよね！」
初めての委員会活動、南岳荘２年間の挑戦

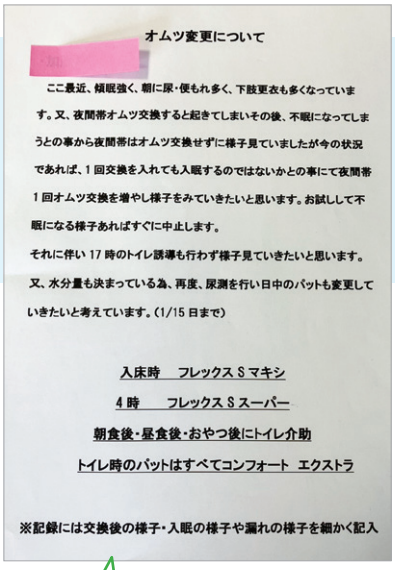
特別養護老人ホーム 南岳荘（山梨県南アルプス市・社会福祉法人八十八会）では、施設全体で個別排泄ケアに取組み、好事例の共有を通して職員の排泄ケア技術の向上に繋げています。現在はTENAの25種類のパッドと２種類のフィクセーション（布パンツ）、スキンケア製品を施設全体でご使用。ご利用者の生活動作や排泄の状況にあわせて使い分け、約半数が布パンツ使用となるまでに様変わり。トイレ誘導の成功により、交換回数やパッドコストに削減効果も出てきています。初めての委員会立ち上げから２年、成功までの軌跡を窪田由香利施設長と小林ゆか介護士長にうかがいました。

TENA導入に備え、コンチネンスケアサポートチーム(CST)を設置。排泄ケアを考えるディスカッション、CSTメンバーのTENAマイスター認定取得、全職員勉強会を実施。導入前準備を丁寧に進めたものの、導入当初の現場からは、変化に戸惑う声が挙がりました。

職員アンケート 導入直後

- サイズが不足、テープが使いにくい
- あてやすいが、ご利用者がいじりやすい
- 袋のデザインが似ていて分かりにくい
- パッドの使い方に慣れなくてあてにくい
- 種類が多くて、覚えるのが大変

ほとんどが“モノへの心配や不安”



オムツ変更について

ここ最近、傾眠強く、朝に尿・便もれ多く、下肢更衣も多くなっています。又、夜間帯オムツ交換すると起きてしまいその後、不眠になってしまうとの事から夜間帯はオムツ交換せずに様子見ていましたが今の状況であれば、1回交換を入れても入眠するのではないかとの事にて夜間帯1回オムツ交換を増やし様子をみていきたいと思います。お試しして不眠になる様子あればすぐに中止します。

それに伴い17時のトイレ誘導も行わず様子見ていきたいと思います。

又、水分量も決まっている為、再度、尿測を行い日中のパットも変更していきたいと考えています。(1/15日まで)

入床時　フレックスＳマキシ

4時　フレックスＳスーパー

朝食後・昼食後・おやつ後にトイレ介助

トイレ時のパットはすべてコンフォート　エクストラ

※記録には交換後の様子・入眠の様子や漏れの様子を細かく記入

CST活動の内容（メンバー:介護士長、介護副士長、各ユニットリーダー４名、ユニット職員４名）

アセスメントに基づく根拠あるケアを根気よく継続

- 漏れたら尿測を習慣化
- １枚使いのメリット インジケーター活用
- 職員アンケートで「ケアをどうしたいか」聞いてケアに活かす
- 申送りノートで課題と対応共有

職員アンケート 導入1年後

- ご利用者の睡眠時間の確保ができている
- ナースと連携が増え、自然排便に取組めるようになった
- 「何かあった時は尿測」と意識できている
- その方の生活に合った時間帯でケアできている
- 以前よりパッド枚数が減り、ゴミも減った

“ケア中心の気づき”への変化

アセスメントに基づきケアパターン変更をCSTから職員へ共有するときの例

- ▶ なぜ変更するかを丁寧に共有する
- ▶ あらかじめ評価日程を決めている

現場の意見が“モノの評価”から“ケア中心の気づき”へ変化できた鍵は

【根拠あるケアの徹底】と【自主性を引き出すCST委員会】

南岳荘様は、2023年３月TENAオンラインセミナーでも事例発表いただきました。
発表資料はこちらからご覧いただけます。 tena-academy.jp
（オンラインTENAアカデミー会員限定公開です。ぜひこの機会に会員登録を！）

「考える機会」が職員のやりがい・成長に
成功体験が次の改善提案の意欲に

導入のきっかけ

Q TENAを導入しようと思ったきっかけは？

A 窪田由香利施設長　ユニットケア特養として個別ケアの実現に向け取組をはじめようとしていました。排泄ケアについても、画一的なケアになっているのではないかという想いがありました。その人の尊厳を大切にするため、できる限り本人の思いに寄り添った排泄ケアに取り組みたいという想いが強かったのです。

施設内での取組について検討を重ねていたちょうどその頃に、TENAアドバイザーの細田秋介さんからの提案を受けたことです。2年ほど前ですね。

Q 導入前の排泄ケアはどのように行っていましたか？

A 窪田施設長　当時は定時でのパッド交換、パッドの重ね使いが当たり前で、個別排泄ケアに全く取組めておらず、職員にとっても排泄ケアは全体のケアの中の１つという認識に留まっていました。

他施設では、パッドゼロの取り組みが行われるなど、排泄ケアが重要だということはわかっていましたが「私たちの施設では難しいだろう」と思っていました。パッド選定も「便失禁がある場合は大きいパッドを付ける」くらいで、そうした根拠のないパッド使用を問題だとすら認識をしていなかったのが実際です。

そうした時に、細田さんから、その人らしい排泄ケアを行う「コンチネンスケア」の説明を聞いて、ぜひ私たちの施設でも取り組みたいと思い、TENA導入をきっかけにして、施設全体の排泄ケアを改善していきたいと思いました。

Q まず初めに何から取り組みましたか？

A 窪田施設長　当時は施設内に排泄委員会が設置されていなかったので、まず、私と介護士長の小林さん、各ユニットからリーダーと職員の各４人をメンバーにコンチネンスケアサポートチーム（CST）を立ち上げました。

そして全職員を対象に、排泄ケアやパッドの選定方法についての勉強会を開催。またCSTメンバーに対して、TENA製品の特長やパッドの当て方などを学ぶTENAマイスターの育成も行いました。

私たちだけ個別ケアに取組むのでは意味がありません。施設全体に個別排泄ケアの重要性を発信するためにも、リーダー層が率先して取組むことが重要だと考えました。そのため、最初のチームメンバーにユニットリーダーを選出し、定期的な排泄委員会の開催を通じて個別ケアについて職員が自主的に考える時間を増やすよう意識していました。

Q CST委員会ではどのような議論をしていますか？

A 窪田施設長　各ユニットから排泄に関する気づきや疑問、課題を持ち寄って発表することを中心としています。各自が課題に思っていることを発表する場として位置付けています。良いことも悪いことも共有していくことが、人材育成や考える力の育成になると考えています。

最初は職員からの発言も少なく、なかなか発表に至りませんでしたが、回をかさねるごとに職員から課題だけではなく好事例の発表が増え、さらにほかのユニットの職員から「私たちのユニットではこんな工夫をしているよ」など、事例を共有することが増えていきました。

CST委員会は、自分たちのケアを見える化して発表する場としても有効で、職員のやりがいにも繋がっていると感じています。

また、TENAアドバイザーが毎回CST委員会に来て、第三者視点で評価をしてくれたこともモチベーション向上に繋がりました。「自分たちのケアはこれでよかったんだ」と感じられたことで、難局も乗り越えることができたと感謝しています。

Q ケアがより良く「変わること」を職員自身が実感できるようになったということですね？

A 小林ゆか介護士長　そうですね。「何かあった時は尿測を行う」が普通になり、原因を検討した上で対処するようになりました。それに伴って尿漏れや便失禁も減っていたので、職員のパッドの当て方向上や技術の進歩があったのだと思います。

窪田施設長　定量的評価としても、１日のパッド交換回数で見ても、平均5.5回から3.5回に減り、最適なパッドを使用することでパッドコストが約２％削減できました。パッドの交換回数が減ることで、ご利用者の睡眠時間確保や、パッド交換による職員の身体的・精神的負担の軽減にも繋がっています。

排泄ケアを見直した時、その先にあるご利用者の生活がどのように変わるのか、自分たちの業務にどのように影響するのか…これらを常に意識しながら業務に向き合える職員の育成にも繋がりました。

Q 新たな取組みに現場の不満や抵抗感はありませんでしたか？

A 窪田施設長　導入してすぐは「サイズが小さいから漏れている」「種類が多くて大変」など、ケアではなくパッドそのものへの不満が多く上がりました。しかし、そうした不満の声は取組みが進む中でなくなり、代わって漏れの回数が減る成功体験を積むことで、職員自身がケア技術に自信をもつようになりました。

Q ご利用者の排泄の自立に繋がったケースはありますか？

A **小林介護士長**　病院から退院し南岳荘に入居されたご利用者でオムツをつけている方がいました。でも、その人はオムツをつけたままでは排泄せず、オムツをはずすと排泄していたのです。

これに気づいた職員から「このご利用者をしっかりトイレ誘導したい」と提案をうけ、私は「ぜひ取組んでほしい」と伝えました。

まずはトイレへ誘導し、便座に座っての排泄を促したところ、トイレでの自立排泄が実現。さらに、食事も自分で食べられるようになったほか、発語が増えるなど、生活全般の自立に繋がりました。

Q パッドの使用状況を見ると、TENAコンフォートのノーマル（吸収量350cc）を多く活用頂いているようです。パッド選びの最適化がなされているようですね。

A **窪田施設長**　ありがとうございます。「漏れた／漏れていない」をバロメーターにすると、どうしても大きなパッドを選んでしまいがちです。職員一人ひとりが排泄ケアについて自主的に考えて取り組んだことでご利用者の想いに寄り添ったケアに繋がっています。導入からここまで頑張ってきた職員を誇りに思います。これからもご利用者が快適に過ごしていただけるケアの実現に向けて、施設全体で取り組んでいきたいです。

Q 布パンツの利用も多いと聞きます

A **窪田施設長**　ご利用者に合わせたパッド選定が上手くできるようになり、施設全体で布パンツを中心としたケアが進んでいます。ご利用者の身体や排泄状態に合わせた適切なパッド使用とトイレ誘導により、南岳荘では約50％のご利用者が布パンツを使用しています。

また、職員から最期の時をできる限りこれまで過ごされてきた格好でお見送りたいという声があがり、はきなれた下着のままでのエンゼルケアを行っています。

お使いいただいている
TENAフィクセーション（布パンツ）

TENA フィックス

TENA フィックス
コットンスペシャル

詳しくはこちら

TENAアドバイザーの関わり

オリジナルツールTENAインデックスは、ご購入いただいたパッドの推移からケアの状態を読み取ることができます。南岳荘様で約半数のご利用者がご使用のTENAコンフォートを例にとってみてみると、トイレ誘導・夜間安眠の実現の様子がうかがえます。

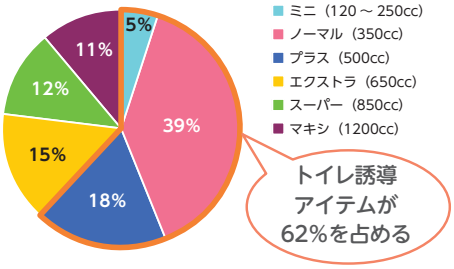
TENA コンフォート

単位：枚

	2022年								2023年					
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	12ヶ月
コンフォート合計	2,900	3,420	2,740	3,534	3,088	2,922	2,894	3,934	3,816	1,638	3,354	3,170	3,844	38,354
3ヶ月平均			3,020	3,231	3,121	3,181	2,968	3,250	3,548	3,129	2,936	2,721	3,456	3,196
ミニ		240		180	600		180		600		180	180	180	2,340
ノーマル	1,260	1,512	1,008	1,638	1,008	1,134	1,134	1,386	1,008	378	1,134	1,134	1,260	13,734
プラス	644	552	552	368	552	368	460	736	552	460	460	276	460	5,796
エクストラ	476	476	476	476	340	612	476	544	612	340	612	544	748	6,256
スーパー	240	360	480	480	420	360	420	540	540	180	240	420	300	4,740
マキシ	280	280	224	392	168	448	224	728	504	280	728	616	896	5,488

夜用アイテムが
4分の1

TENA コンフォート　吸収ランク使い分け



トイレ誘導
アイテムが
62%を占める

アドバイザーはこう読みます

- ●トイレ誘導アイテムが62％を占める
  - →トイレに座ることが基本として定着している
- ●夜用アイテムが23％と全体の４分の１以下で推移
- ●吸収ランクの全体バランスが安定（月のバラつきない）
  - →決めたパターン通りの運用、適切なあて方が浸透している。
  - →過不足のない在庫・発注管理の仕組みが運用されている。

ディストリクトマネージャー（TENAアドバイザー）　**細田　秋介**

現場でケアに取組まれている方々は介護のプロであり、皆様非常に自分に厳しいです。コンチネンスケアの取り組みについても「自分たちのレベルでは難しい」と評価されることがありますが、決してそのようなことはなく、しっかり実践されていることがほとんどです。

私たちTENAアドバイザーは職員の皆様自身が気づいていない能力や良さを伝えることが最も大切な役割だと考えています。

委員会の場では「自分たちは〇〇ができていない」など反省点を多く挙げてしまいがちですが、実際はできていることもたくさんあります。介護現場の皆様は「出来て当たり前」だと思っているケアや取組みも、実は非常にハイレベルで専門性の高いことです。

また、評価を伝える際は使っているパッドの枚数がどう変化しているのか、漏れの回数はどうかなど、データ（数字）に基づいて説明させていただきます。

これからも現場の皆様の取組みをしっかり理解し、好循環が生まれるよう伝えていきたいです。

お取組み事例 サマリー

社会福祉法人八十八会　特別養護老人ホーム南岳荘

山梨県南アルプス市　定員：ユニット型特養入居70人、ショートステイ20人

法人理念

「縁ある人々と共に差別なく、人間の生きる尊さを大切にし、摂理に叶った生き方を、日々怠りなく追求する」

排泄ケアにおける課題・TENA取組のきっかけ

①オムツ+尿とりパッドの重ね使い
②一斉一律の定時交換
③根拠不在のアイテム使用
④職員によってバラつきのある交換、陰部洗浄方法
⑤便失禁によるご利用者・職員双方負担増

TENAアドバイザー細田から提案した「その人らしくお過ごしいただくためのコンチネンスケア」の考え方に共感。初めての大きな取組みで不安もあったが、南岳荘にとっての取組み意義について、何度もアドバイザーと話し合いを重ねた

TENA導入の目的・目標

テーマ
「根拠のある排泄ケアの実践」

目的　考えるケア、根拠あるケアの実践。初の施設全体取組みとしての成功
目標　施設内でのコンチネンスケアの普及

TENA導入までの３ヶ月間のステップ

2021年７月	CSTメンバー選出、CST委員会発足
８月	CSTメンバー学習会、職員対象学習会、CSTメンバーのTENAマイスター認定取得
９月初旬	製品使用方法の個別指導
９月中旬	アセスメントによるアイテム、交換パターン決め
９月下旬	TENA導入開始

取組みのポイント

自主性を促すCST

ポイント

- 定期的に排泄ケアについて考える
- あたり前のことをあたり前としない
- できていることとできていないことを明らかにする
- お互いをほめ合う
- リーダー層をCSTメンバーとし取組みを施設全体へ広げる

「やりたいことを話し合う」CST会議運営

ポイント

▶各ユニットから好事例や課題を持ち寄り
▶課題には「ご利用者のために、自分たちが何をしたいか」を常に投げかけ
▶独自のスタッフヒアリングシートを活用し、職員の意見を定期的に確認

最期まで下着をあたり前に

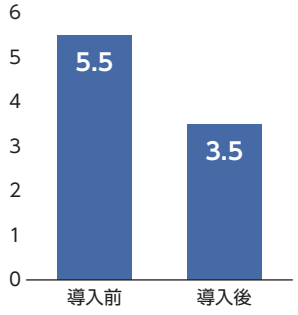
特養理念：あなたの笑顔のために
あなたらしい暮らしの継続
▼
目的：最期までご利用者がこれまで過ごしてきた姿のままでお過ごしいただく
▼

ポイント

衣服も着慣れたものを最期まで。
下着も同じ。だから布パンツに挑戦

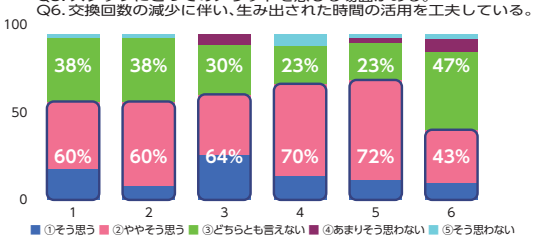
導入１年後の効果

パッド交換回数削減



職員の意識変化

Q1.TENA の排泄ケアに対する考え方を理解し、共感している。
Q2.TENA 製品の使い方に慣れ、上手に当てられている。
Q3. 排泄ケアの負担が減った。
Q4. ご利用者にとってのメリットを感じる場面がある。
Q5. スタッフにとってのメリットを感じる場面がある。
Q6. 交換回数の減少に伴い、生み出された時間の活用を工夫している。



下着（布パンツ）ご利用者 50%

一人、二人と成功できると「この方もトイレに座れるかも」と自発的な意見が増え、トイレ誘導が進んだ

発行日：2023年７月　（発行元）ユニ・チャーム メンリッケ株式会社　〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-12　TEL 03-5772-0190　FAX 03-5772-0191
（企画編集制作）株式会社シルバー産業新聞社　〒542-0064 大阪市中央区上汐2-6-13　喜多ビル　TEL 06-6766-7811

※ 無断での複写・複製・転載を禁じます。

Uni-Charm Mölnlycke K.K.

「リーエンダ」とはスウェーデン語で笑顔を意味する言葉です。